愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	メディアコンテンツ入門		
担当者(Instructors)	安藤 真澄	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
			実務家教員科目(Pro teacher course)

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

現代人は多様なメディアを通じて、多様で大量のコンテンツに毎日接している。歴史を振り返るとメディアテクノロジーの進歩と共に新たなコンテンツが生まれて来たことがわかる。話しことばによって語られる物語もコンテンツである。文字が発明されることで、語り手がいなくても物語に触れることが可能になる。文字が読めない人のためには絵物語が作られて来た。その後、印刷技術の発明によって、書物が大量に印刷 されるようになり、より多くの人々が書物から情報を得ることが可能になった。このようにメディアとコンテンツには密接な関係が ある。 現在、デジタル・テクノロジーによってより大量のコンテンツがより高速に拡散されているが、新たなメディアテクノロジーが登場すると人間の表現力が広がり、新たなコンテンツが生まれることになる。コンテンツは文化であり、新たなテクノロジーが新たな文化を生み出す。しかし、 同時に社会的な問題も発生する。 そこで、この講義ではメディアテクノロジーの進歩とそこから生まれるコンテンツの関係を考察し、デジタル・テ クノロジーがコンテンツをどう変えるのか、その可能性と問題点について学ぶ。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義中に質問をするので、その回答も踏まえながら講義を進めて行きます。積極的な参加を歓迎します。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	広告会社でコンテンツプロデュース業務や放送局とのプロジェクトマネジメントに携わって来ました。そこで感じていた日本のメディアコンテンツ産業の長所と課題について事例を踏まえながら解説していきます。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	イントロダクション	講師略歴紹介、授業の狙いと進め方、見るべきコンテンツや読むべき文献の紹介等	□
第2回	メディアの定義	メディアとは何を意味するのか、どのような働きがあるのかを理解する。メディア論の考え方を知る。	□
第3回	メディアの歴史	テクノロジーから見たメディアの歴史を学ぶ。テクノロジーがメディアのあり方を変えていくことを理解する。	□
第4回	コンテンツとは何か	コンテンツの定義と種類の考え方を学ぶ 。	□
第5回	メディアとコンテンツの関係	メディアテクノロジーがコンテンツに及ぼす影響を学ぶ。	□
第6回	日本のコンテンツビジネス	コンテンツビジネスの市場規模と主なプレイヤーにはどんな会社や組織があるかを学ぶ	□
第7回	前半の振り返り	前半授業の振り返りと主要な概念・キーワードの復習	□
第8回	現代日本のマスメディア①	印刷メディア（新聞、雑誌）の特徴と現状の課題について考える	□
第9回	現代日本のマスメディア②	電波メディア（テレビ、ラジオ）の特徴と現状の課題について考える	□
第10回	インターネットメディアとコンテンツ	日本のインターネットの歴史とインターネットコンテンツの変遷について学ぶ	□
第11回	SNS（Social Networking Service）とコンテンツ	ソーシャルメディアの利便性と問題点(光と影）について考える 代表的なユーチューバーの果たした役割と課題について考える	□
第12回	インターネットとゲーム	パッケージメディアとネットメディアにおけるゲームコンテンツの違いについて考える	□
第13回	メディアミックスとコンテンツ	メディアを横断するコンテンツとして「気滅の刃」等の事例を踏まえ、どのようなマーケティング戦略を行っているかを考える	□

第14回	グローバルなコンテンツ	ハリウッド映画、日本のアニメ、Ｋ－ＰＯＰ等のマーケティング戦略について事例を学ぶ	□
第15回	まとめ	後半授業の振り返りと、主要な概念・キーワードの確認	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義前に参考文献や検索等で各テーマに関して調べ、その際に出典を明らかにしておく(2時間）。復習として、その日の内に講義のポイントを確認し、キーワードの理解を深め、課題が出た時はその知識を基に課題を作成する（(２時間）。普段から自分の推しのコンテンツは何か、なぜ推すのか。そのコンテンツはなぜ人気なのか、どうやって収益を上げているのかについて考える癖をつける。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

適宜、課題を出題します。課題に対するレポートの内容については次の講義で解説します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	インターネット時代の日本のメディアとコンテンツの特徴を理解し、その強みと弱みを分析し、説明できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
		80%		20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

適宜、課題を出題します。課題とは別に期末試験のレポートも提出してください。授業への参加態度も重視します。
授業時間中に告知するパスワードにより、TOPOSへの出席登録を行うことで出席とします。
それらによって総合的に評価します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし 適宜スライドを用意します。しっかりノートを取ってください。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	稲増一『マスメディアとは何か～「影響力」の正体』中公新書、2022年	978-4-12-102706-1
2	ＮＨＫ『平成ネット史(仮)取材班』幻冬舎、2021年	978-4-344-03720-5
3	マーシャル・マクルーハン、森常治(訳)『グーテンベルクの銀河系――活字人間の形成』 みすず書房、1986年	978-4622018964
4	マーシャル・マクルーハン、栗原裕・川本仲聖(訳) 『メディア論 人間の拡張の諸相』みすず書房、1987年	978-4622018971
5	岡本健・遠藤英樹編著『メディア・コンテンツ論』2016年、ナカニシヤ出版	978-4779509728